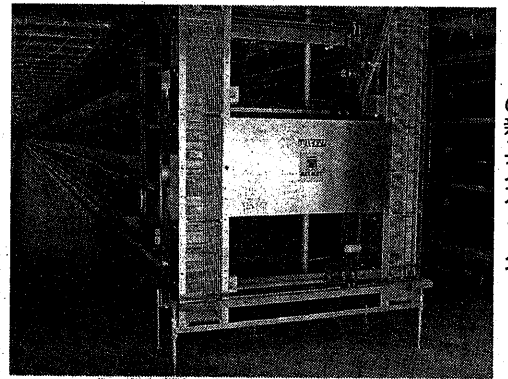
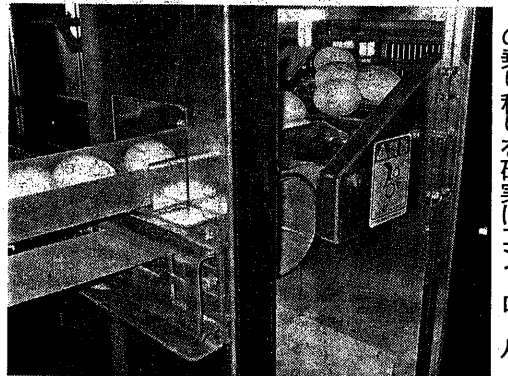


フィールドテスト中の新エスカレーター



トランスファーコンベア。格段間の乗り移りを確実にコントロール



破卵問題解消した直段集卵機

東洋システム 独・サ社と共同開発

東洋システム(株) (安田勝彦社長) 本社・岐阜県各務原市金属団地九七一(四)は、直立ゲージ集卵

機で避けられなかった破卵問題の解消を目指し、約三年前からドイツ・サルメット社と新機構(特許二件申請済)による集卵機の開発に取り組んできたが、二月にデモ機によるフィールドテストを完了したことから、本年六月から納入を開始すると発表した。

直立ゲージ集卵機は、例えば六段集卵機の場合、六段の集卵ベルトから上下関係で同じ位置に卵が出てくるため、これらの卵のぶじかさをコン

トロールしなければならぬが、新集卵機(エスカレーター)ではコントロール機構に動きが少なく、シンプルで、しかも卵にやさしいトランスファーコンベアを開発した。

フィールドテストは、強換後六九〇日齢のジュリア鶏が収容されている鶏舎で行なわれていたが、集卵機による破卵はゼロに近く、同社では現仕様集卵機対比全週齢平均で約二%の改善効果があるとしている。

新エスカレーターは、軟卵除去率もほぼ一〇〇%になり(従来は約九〇%)、乗り移りタイミング調整のメンテナンスも単純で、やりやすくなるように改善されている。さらに時間当たり集卵能力も五〇%アップし、多様な集卵パターンに対応しやすくなっているとしている。

同社ではサルメット社との共同開発、設計を今後一段と強化して、日本の生産者の厳しい要求に応えていきたいとしている。